



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

12月号 令和7年 11月28日

優しさと思いやりを持って

校長 福田博志

早いもので今年最後の月となりました。この1年の大きな収穫は、成中生の皆さんの「よさ」を授業や学校行事、部活動など様々な場面で見つけたことです。さすがは成中生と鳥肌が立つほどの感動を覚えた場面がたくさんありました。これからも成中生を最大限応援していきます。

さて、最近、「人権」という言葉を新聞やニュースなどで見たり聞いたりすることが多くなりました。なぜかという、12月10日が「人権の日」だからです。12月10日が「人権の日」と定められたのは、今から77年前の1948年のことです。世界が一つになろうという目的でつくられた「国際連合」が設定したものです。12月10日を最終日とする一週間を「人権週間」と決めました。そのため、世界中で統一して12月4日から12月10日を人権週間としています。



「人権」についての考え方は、200年ほど前にヨーロッパで始まったものです。それが、世界に、そして日本にも広められました。「人権」とは、人が人らしく生きる権利のことです。分かりやすく言うと「人が幸せに生きる権利」のことです。この権利は誰もが尊重されるべきもので、人が幸せに生きるために必要なものであって絶対に守られなければならないものです。私たちが生きる上で、欠かせないものであり、社会の中で他者を理解し、尊重するための基盤となるものです。

しかし、気をつけなければ、人権が侵害されることがあります。いじめ、差別、暴力といった問題は、私たちの身近でも起こり得るものです。これらの問題を起こさないためには、まず、自分自身が人権についての理解を深めることが大切です。他者の権利を尊重し、互いに支え合う社会をつくるためには、私たち一人ひとりの人権感覚を磨き、人権意識を高めていくことが必要なのです。

いじめや差別をなくすために、話し合いの場を持ち、相手を尊重しながら意見を交換することも大切です。自分の意見を大切にしながらも、相手の意見に耳を傾け、違いを認め理解し合う姿勢を持てば、徐々によりよい人間関係が築けるでしょう。

さらに、「いのち」の大切さと「人権」の理解は、切り離せない関係にあります。「いのち」が尊重される社会では「人権」も保障され、逆に「人権」が尊重されることで「いのち」も守られるのです。私たちが理解し、実践していくことでよりよい社会を築くことができるでしょう。

成中生の皆さんには、これからの人生の中で「人権」の大切さを忘れず、他者と共に生きることの喜びを感じて欲しいと願っています。日々の生活の中で、小さな行動を積み重ねることが大切です。周りの人々に対して優しさと思いやりを持ち、自分ができることから始めてみましょう。